



**H20.6月21日 第7回教養講座「心を育むための心理学と精神医学」を開催**

本学臨床講義棟2階の臨床講義室において、第7回教養講座が開催され、雨天にもかかわらず149名の市民が参加しました。

コーディネーターの山田尚登教授（精神医学講座）の挨拶に続いて、稲垣真彦医師が「子供の問題行動の原因を探る」と題して、両親が子どもの言葉に耳を傾けることの大切さについて、小西瑞穂助手が「思春期の子どもの悩みとその対応」として、より良いコミュニケーションのとり方のコツについて、今井眞講師は「子供の眠りと睡眠障害」というテーマで、思春期に見られる睡眠障害について講演を行いました。

講演終了後の質問コーナーでは、それぞれの演者に熱心な質問が寄せられました。



**H20.6月23日 ホーチミン医科薬科大学と学術交流協定を締結**

ベトナム最大の医療系大学 ホーチミン医科薬科大学のダン・ヴァン・フック学長らを本学に迎えて、大学間学術交流協定を締結しました。

同大学の研修病院であるチョー・ライ病院とは、平成18年12月に学術交流協定を結び、放射線部、看護部、外科等に研修員、研修者を受け入れてきましたが、今後、同大学との間で鳥インフルエンザをはじめとする共同研究や人的交流の推進が期待されます。

また、あわせて来日したチョー・ライ病院のタイ・ティー・キム・ガ看護部長が、6月25日から3日間、附属病院において病院管理、看護管理などについて研修を受けました。



**H20.6月30日 鳥居教授が京都大学山中教授らとiPS細胞の共同研究に着手**

動物生命科学センター鳥居隆三教授が、京都大学山中伸弥教授、三菱生命科学研究所等との共同研究により、サルiPS細胞の樹立と万能性の検証等に着手します。

サルの体細胞から作製したiPS細胞の万能性を検証するほか、生殖細胞に分化させて受精卵を作製、それをサルの子宮に移植して、子ザルを誕生させます。これを3世代まで追跡調査し異常の有無を確認する予定です。

iPS細胞から個体を作製できれば、ヒトの病気と似た症状を示すモデルサルの開発も大きく前進します。これにより、ヒト疾患の病態解明や診断・治療への応用に多大な貢献ができると考えています。



**H20.7月1日 地域医療の担い手育成をめざし高大連携事業協定を膳所高校と締結**

滋賀医科大学は膳所高等学校と高大連携事業協定を調印しました。県内の高校生に、医学に関する教育・研究に触れる機会を提供するとともに、基礎医学や医療従事者の使命や働きがい等に関する講義を行って、医学と看護学を志す高校生を育成することがねらいです。

10月から本学で、膳所高校の理数科1年生全員と2年生の希望者を対象に、「生理学」「社会医学」「病理学」「解剖学」「外科学」等の講義と実習を実施する予定です。

調印式に出席した馬場忠雄学長は、「医学と看護学を身近に感じてもらえるような授業を行って、地域の高校生に興味を持ってもらい、地域医療の担い手を育てる一助になればと思う」と語りました。

また7月22日には、虎姫高等学校との間にも高大連携事業協定が調印されました。

